

米永仏壇（金沢・米永章社）はこれまで二十二回開催されてきた全国伝統的工芸品仏壇具展の最高賞である経済産業大臣賞（以前は通産大臣賞）を五回受賞している。毎年開かれていた時代から、現在は二年に一度の開催となっているが、五回は最多受賞回数である。もちろん最高賞の経産大臣賞の他にも、ほぼ毎回のように入賞を果たしている。

米永仏壇展示野仏壇展示場には経済産業大臣賞の仏壇が二本展示してある。全国的に見ても、経産大臣賞受賞の仏壇を展示できる仏壇店は限られている。

龍瀧部長は「弊社には蒔田も含めて三名の蒔絵師を抱えています。蒔田ともう一人が伝統工芸士で、残る一人が三時代の漆芸の大家である松田十代の女性です。木地師もいますので、木地から塗り蒔絵まで社内での仕事で仕上げる

「受賞作品をベースにしたお仏壇の注文を受けることも多く、お客様の評判も非常に良い」と同社の龍瀧部長の説明にはうなずかされる。

受賞作品は金沢仏壇の伝統性を継承しながら、蒔絵に創作性をもたせた米永スタイルの仏壇だ。今回の取材では店舗二階で仕事をする蒔絵師・蒔田稔さんの仕事を見ることが出来た。

龍瀧部長は「弊社には蒔田も含めて三名の蒔絵師を抱えています。蒔田ともう一人が伝統工芸士で、残る一人が三時代の漆芸の大家である松田十代の女性です。木地師もいますので、木地から塗り蒔絵まで社内での仕事で仕上げる

「全国的に見れば都市型家具調仏壇が増えていまして、金沢ではやはり金仏壇が主流です。弊社の場合は金仏壇の売れ行きは悪くないです。ただしサイズは小型化していますね。若い世代の方でも家を建てれば金仏壇をお求めになります。家と仏壇はまさにセットになっていきます。仏壇のない家は家ではないという感覚が標準だと思えます。石川の場合は、仏壇の仏壇は襖で隠されることが多く、そのまま仏壇が見える地域の方とは感覚が違うかもしれません。朝になると襖を開けて、夜に襖を閉めるご家庭が多いと思います」

都市型仏壇はそれでも少しずつ増えているが、「急に仏壇が必要になった方、マンションにお住まいの方がお求めになることが多いです」ということだ。

唐木仏壇も独自の品揃えが特長だ。例えば小型で漆で仕上げた製品、蒔絵を入れて華やかさを演出した製品などが並ぶ。

経済産業大臣賞の仏壇から都市型仏壇まで、この品揃えがおお客様の満足感を生み出している。来春の伝産展の米永仏壇の作品も楽しみだ。

◎米永仏壇 TEL076(222)1930 FAX076(222)3378

「仏壇があつてこそこの家という風土」

米永仏壇（金沢）



第19回全国伝統的工芸品仏壇具展（平成19年京都開催）で経済産業大臣賞を受賞した金沢仏壇（左）



蒔絵入の唐木仏壇も人気だ（左）



蒔絵師の蒔田稔氏



米永仏壇展示野店



都市型仏壇の品揃え
漆塗り小型唐木仏壇も展示